

ZENFAUREN

全附連 | 全国国立大学附属学校連盟・一般社団法人全国国立大学附属学校PTA連合会

子どもたちと
この国の
未来のために

「全附P連 第74回定時総会」開催 6月6日（土）お茶の水女子大学



令和8年度全附P連会長に 荒 叡應 氏（神戸大学附属小学校PTA）が就任

六月六日、お茶の水女子大学において、「全附P連 第七十四回定時総会」が開催され、全国の国立大学附属学校園PTAの代表が一堂に会しました。

総会では、令和七年度事業報告及び収支決算報告並びに令和八年度役員承認等が審議され、いづれも承認されました。続いて開催された第一回理事会において、荒叡應氏が新会長に選任され、令和八年度の執行体制が発足しました。総会再開後、その報告がなされると、会場は新たな門出を祝福する温かな拍手に包まれました。

第二部では、荒新会長が就任にあたり、「子どもたちとこの国の未来のために」との理念のもと、全国の附属学校園保護者の力を結集し、連携を深めながら活動を発展させていく決意を表明しました。あわせて、関係省庁による行政説明、PTA団体表彰及び個人表彰が行われ、附属学校の発展に寄与する多くの取組と功績が称えられました。

本総会は、新会長の就任を契機として全附P連が新たな歩みを始めるとともに、未来を担う子どもたちのため、全国の国立大学附属学校園がさらなる連携と発展を誓い合う意義深い機会となりました。

ピンチの今こそ附属学校のポテンシャルを発揮し、社会から必要とされる存在に



文部科学省
高等教育局専門教育課
教員養成企画室長
若林 徹 氏

昨年度に引き続き国立附属学校を担当させていただいている若林と申します。

文部科学省内で附属学校を担当する教員養成企画室は、昨年十月に省内の組織再編により、大学政策を担当する高等教育局に移管されました。高等教育局では、18歳人口が大幅に減少する2040年を見据えて、高等教育へのアクセス確保やエッセンシャルワーカー養成機能を維持するため、大学の規模や学部等の見直しを進めています。附属学校の設置者である国立大学も2028年から始まる第五期中期目標期間に向けて、社会の変化やニーズを踏まえた機能強化や組織の見直しを進めているところ です。

また、現在、初等中等教育段階では学習指導要領改訂の検討が進められており、これまでのような全国的な教育課程の基準だけでなく、学校毎、更には多様な子どもたち一人一人に応じた教育課程を編成できるように方向性が示されています。

こうした状況は附属学校にとつて厳しい状況であるとともに、附属学校が公立学校等のモデル校としての機能を発揮していくチャンスであるとも考えられます。附属学校の優れた取り組みが広く認知され、社会から真に必要とされる存在になるよう、関係者の皆様と協力して尽力してまいります。

LINE UP

—3面—

全附P連特集

—4～5面—

給食特集

—6面—

作文・絵作文

—7面—

全附P連表彰

—8面—

全附連盟特集

—9面—

幼特活動特集

—12面—

OBOG訪問

未来を切り拓く子どもたちの育成に向けて



全国国立大学附属学校連盟
理事長 下永田 修二
(千葉大学附属小学校長)

このたび、全国国立大学附属学校連盟の理事長を拝命し、その責任の重さを感じております。変化の激しい現代社会において、子どもたち一人一人が自らの可能性を発揮し、未来を主体的に切り拓いていく力を育むことは、学校教育に課せられた重要な使命です。そのためには、個別最適な学びと協働的な学びを一体的に進め、多様な他者と関わりながら深く学ぶ教育の実現が不可欠です。全国の国立大学附属学校園では、これまでも先導的・実践的な教育研究に取り組んでまいりました。本連盟としても、こうした実践を共有し合いながら、我が国の教育が直面する課題に全国的な視点で向き合い、その解決に寄与してまいります。附属学校園の連携を一層深め、未来を担う子どもたちの資質・能力の育成に尽力してまいります。今後ともご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

子どもたちとこの国の未来のために

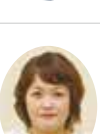


一般社団法人全国国立大学附属学校
PTA連合会
会長 荒 叡應
(神戸大学附属小学校)

近年、国立大学附属学校は、大学改革における合理的機能強化の一策として進められる統廃合という大きな潮流に直面しています。しかし、社会構造が著しく変化する現代において、国立大学附属学校に期待される役割はむしろ一層重要性を増しています。

今、私たち一人ひとりに求められているのは、教育の未来をどのように支え、次世代へつないでいくのかを主体的に考え、行動することです。今後も全附P連は、国立大学附属学校の魅力や教育的意義を、客観的エビデンスに基づき社会へ発信するとともに、その公益性・公共性への理解を深め、社会的価値の向上につながる活動に取り組んでまいります。学校、保護者、地域社会等と力を携え、教育を社会全体で支える営みをさらに広げながら、子どもたちが希望を持って学び育つ未来の実現に努めてまいります。

直前会長 | 副会長 | 委員長 | 監事 | 地区会長

 宮本 昌尚 直前会長 直前会長として会長をはじめとする理事をしっかりとサポートしてまいります。よろしく願いいたします。	 村上 哲平 副会長 国立大学附属学校園のPTA活動を全国に発信し、家庭・学校・地域の連携を深め、公教育の発展と子どもたちの健全育成に寄与いたします。	 中井 優 副会長 財務委員会担当副会長及び特別委員会委員長を担当します。職業会計人としての知見で会に貢献しつつ、特別委員会を担当します。
 間宮 達紀 専務理事 保護者として各地区の理事の皆さんと力を合わせ、附属学校の魅力を社会へ発信し、子どもたちの豊かな学びを支えてまいります。	 金丸 剛史 副会長 全国大会を通して附属学校の魅力を発信し、皆さまと共に学び、考え、交流しながら魅力ある研修会となるよう企画運営に努めます。	 松村 望 総務委員長 組織全体の下支えに尽力すると共に、各地区との繋ぎ役を担い、全国の皆様が円滑に活動できるよう努めてまいります。
 山中 達郎 財務委員長 適正な財務管理を行います。また財政や金融経済の教育プログラム、カンガルー保険の普及推進も積極的に取り組んでまいります。	 勝村 善一郎 広報委員長 全国附属学校の魅力を内外へ発信するとともに、各校の実践や知見を共有できる広報活動に努めてまいります。	 竹下 英明 研修委員長 学校園と同じく人が集い様々な意見に触れる研修大会という素敵な場を、全附P連の皆さんと共に盛り上げていきたいです。
 三枝 祐一 幼稚園特別支援委員長 多様性を認め合う共生社会の実現に向けた取組を全国に広げるとともに、特別支援学校と幼稚園それぞれの魅力や教育的意義を発信し、未来につながる活動を展開していくよう努めます。	 萩原 清明 監事 本法人の活動方針を踏まえ、健全かつ適正な運営が実施されていることを確認し、監査業務をおこないます。	 大竹 昌士 監事 全附P連の事業活動が全国の国立大学付属学校園にとって有益なものとなるよう、理事会の運営をサポートしてまいります。
 相澤 英俊 北海道地区会長 北海道地区の各学校園と地域、少子化に伴う存続の在り方などを多方面から検討し、在校生の学ぶ環境や質的満足度を更に高めます。	 伊藤 大地 東北地区会長 地区連携と地域間交流を促進し、子どもたちが楽しく学校生活を送れる一助となる、時代に即したPTAのあり方に取り組んでまいります。	 栗原 伸陽 関東地区会長 皆さまとの対話を大切にしながら、関附P連、全附P連における各校の連携が持つ意義を深めていく様務めてまいります。
 本間 智之 北信越地区会長 北信越地区での情報交換を活発にし、将来社会で活躍する子どもたちの教育のため、関係者の皆様との連携、情報発信に努めます。	 尾関 年彦 東海地区会長 東海地区各学校園の課題を共有しながら、意見を闊達に出し合える絆を築き、時流に沿ったPTA活動を推し進めてまいります。	 荒 叡應 近畿地区会長 近畿地区37校園の交流を促進し、組織改革と諸課題の解決に取り組み、附属学校の社会的価値を高める活動を推進してまいります。
 高山 晃一 中国地区会長 中国地区間での交流を図り、PTA活動を通して、子供たちが夢と希望をはぐくんでいける環境を創り出していきます。	 富原 真記 四国地区会長 子どもたちの笑顔のために、他附属校園と連携し、全国と四国地区をつなぐ架け橋となるよう活動してまいります。	 名嘉 千絵 九州地区会長 つながりを大切に、対話を重ねながら、子どもたちの幸せと希望を共に育み、関わる全ての人が喜びや成長を実感できる活動を目指します。

役員 | 理事 | 監事 | 顧問 | 評議員

評議員	北海道地区（会長 相澤 英俊）		東北地区（会長 伊藤 大地）		関東地区（会長 栗原 伸陽）		北信越地区（会長 本間 智之）	
	相澤 英俊	大平 陽子	伊藤 大地	岡部 南津子	栗原 伸陽	長谷川 高大	本間 智之	高井 友博
	（札幌中）	（北海道教育特支）	（福島中）	（秋田幼）	（埼玉小）	（東京学芸竹早小）	（新潟長岡小）	（福井義務教育）
	東海地区（会長 尾関 年彦）		近畿地区（会長 羌 叡應）		中国地区（会長 高山 晃一）		四国地区（会長 富原 真記）	
	尾関 年彦	齊藤 晋一郎	中島 大我	藤本 篤	高山 晃一	北條 榮太郎	富原 真記	米澤 孝明
	（岐阜小中）	（静岡浜松小）	（大阪教育高天王寺）	（兵庫教育中）	（岡山中）	（山口山口小）	（鳴門特支）	（高知特支）
	九州地区（会長 名嘉 千絵）		全附連盟選出					
	名嘉 千絵	原田 佳英	太田 千佳子	鎌田 正裕	南 伸昌	富田 明德	関口 睦	
	（琉球小）	（熊本小）	（元北海道教育特支）	（元東京学芸竹早幼小）	（元宇都宮幼）	（元兵庫教育小中）	（埼玉中）	

子供たちの「生きる力」を、毎日の生活習慣から



文部科学省
総合教育政策局
地域学習推進課
家庭教育支援室長補佐

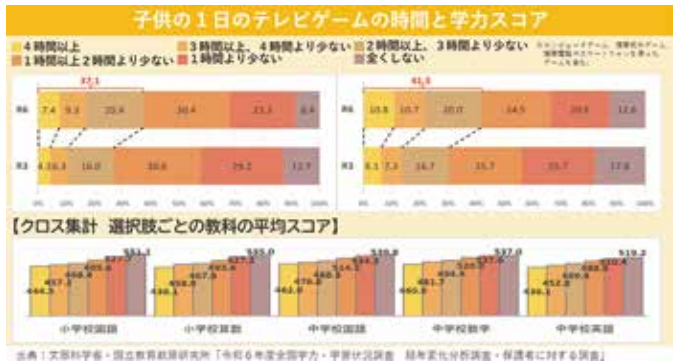
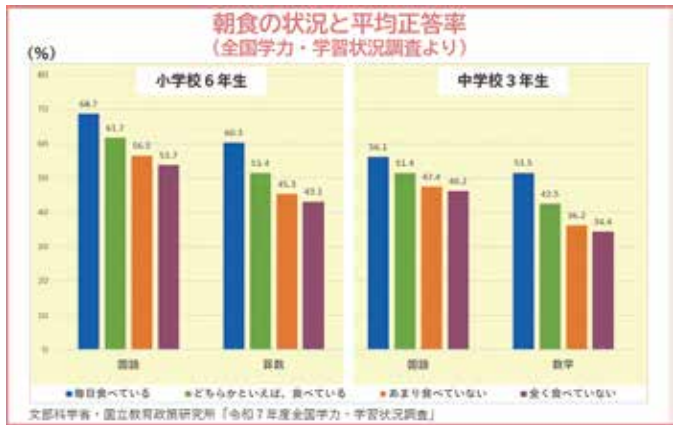
泡淵 栄人氏

「早寝早起き朝ごはん」国民運動は、教育基本法の改正を契機として平成18年度にスタートし、今年で20周年を迎えました。「早寝早起き朝ごはん」全国協議会の会員でもある（一社）全国国立大学附属学校PTA連合会の皆様におかれましては、本運動の推進に際しまして、長きにわたる格別の御支援、御協力、そして御尽力を賜りまして厚く感謝申し上げます。

家庭教育は、子供の基本的な生活習慣の確立、自立心の育成、心身の調和のとれた発達を図るうえで大きな役割を担っています。核家族、共働き家庭、ひとり親家庭の増加など家庭を取り巻く環境の変化により、家庭教育を行うことの難しさが指摘される中で、家庭が抱える課題を個々の家庭や子供の問題として見過ごすことなく、社会全体で家庭や地域の教育力を向上させていく必要があります。その中で「早寝早起き朝ごはん」国民運動は、学校・家庭・地域等様々な主体の連携によって継続、そして発展を遂げ、全国各地で特色ある取組を実施していただいております。その成果として、子供たちの起床、就寝時刻や、朝食の摂取状況について一定の改善が図られてきました。

睡眠習慣や朝食摂取と、学力や体力との相関については指摘されて久しいところですが、最新の令和7年度調査結果においても、朝食を毎日食べている小・中学生は、「全国学力・学習状況調査」の平均正答率が高い傾向にあり、また「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」の体力合計点が高い傾向にあります。これらのデータからも、子供たちの健やかな成長のために重要な「早寝早起き朝ごはん」の定着に向けた取組を推進していく必要があります。

一方で、近年の子供の生活リズムについては、子供たちのテレビゲーム、スマートフォンの使用時間が増加するとともに、学校外での勉強時間が減少しているといった状況の変化が起きており、学力



スコア低下との相関もみられます。保護者のテレビゲーム、SNS、動画視聴時間や、子供への声かけ、働きかけといった行動や意識は、子供の学校外での過ごし方に影響を与える要因の1つであり、また、子供の幸福感との一定の関係性も指摘されています。本運動は、「早寝早起き朝ごはん」というキャッチフレーズではありますが、単に早く寝て、早く起きて、朝ごはんを食べる、ということだけを求めているのではなく、適切な睡眠や食事等をはじめとした生活習慣全体をそれぞれの個人や家庭において見つめなおし、家庭でのルール作り等を通してそれぞれに合った形で実践していくことが重要です。

文部科学省では、これまでの20年間の成果、実績の振り返りと現状の分析を踏まえ、引き続き関係団体や関係機関、企業等の皆様と連携しながら、近年の新たな課題の解決に取り組み、次世代を担う子供たちの基本的な生活習慣の確立に向けた取組を進めてまいりる所存ですので、今後とも、本運動の一層の充実のために御支援、御協力を賜りますようお願い申し上げます。

「三つの種」育てを支える「早寝早起き朝ごはん」の取組



福岡教育大学附属幼稚園
園長
木部 里美氏

本園は、宗像大社で有名な宗像市内に位置し、自然豊かな福岡教育大学と隣接しています。附属小学校は、三校（小倉・福岡・久留米）ありますが、本園はどの小学校とも離れており、唯一の隣接校が本学です。そのため、豊かな自然環境や本学教員との連携を強みに、さまざまな取組にチャレンジすることができ、特色ある保育内容を展開しています。

さて、幼児期の教育は、生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要なものであることに鑑み、本園では「三つの種」育てに力を入れています。それが「あいさつの種」「なかよしの種」「がんばりの種」です。そして、「三つの種」育てを支えるのが「早寝早起き朝ごはん」と考え、園長のリーダーシップの下、養護教諭を中心に保護者や大学、地域と連携して、幼児の生活習慣・健康づくりに向けた取組を組織的・計画的・継続的に行っています。なお、本園のスタンスとしては、「早寝早起き朝ごはん」運動の旗印を掲げて取り組んでいるわけではありません。あくまでも、日常の園生活や家庭生活で、親子が楽しく実践することを基本に据えているのです。

「早寝早起き」の励行については、幼小接続を意識して、長期休業前の養護教諭による保健指導と、「やくそくカレンダー」を活用した取組がありますが、ここでは、「朝ごはん」の習慣化・充実に向けた食育の推進に特化して、三つの取組を紹介いたします。

一点目は「ちやれんじ食材」の取組です。本園では、水曜日以外、弁当持参です。それを活かし、朝食の習慣化・充実には、保護者による弁当づくりに着目することが効果的であると考えました。養護教諭が年度当初に実施計画を立て、食育だよりで毎月「ちやれんじ食材の日」を設定。いくつかの食材から選べる「旬の食材セレクト方式」とし、調理して弁当に入れるよう促しています。その際、家政教育を専門とする本学教員にも、養護教諭と連携し、かわわっていただいています。

「ちやれんじ食材」に取り組み続けてきたことで、幼児の苦手な食材も弁当に入れようという保護者の意識が定着し、調理の工夫次第で、苦手な食材を克服する幼児も見られるようになりました。また、栄養を考えた朝食の充実にもつながりました。

福岡教育大学附属幼稚園

二点目は、「すくすく子育てサロン」・「チャレンジ！羽釜で美味しいごはんを炊こう」の取組です。隣接する本学には農場があり、芋の苗植えや収穫、年長児による農場探検などで、技術教育の教員にお世話になっています。その先生を講師に栽培や食に関する話を聞き、保護者が羽釜でごはんを炊く活動を体験。熱々おにぎりを食べながら、つくることや食べることの楽しさを共感し合う保護者の姿が印象的でした。本園主催の「すくすく子育てサロン」の一つですが、羽釜による保護者の炊飯体験が功を奏し、「朝から、ごはん」と味噌汁をしつかり子どもたちと食べる」ことの大切さに気付く保護者も見られました。

三点目は、PTA研修部主催による「みそづくり」の取組です。二点目の「すくすく子育てサロン」の波及効果から、「みそづくりを子どもたち体験させたい」という保護者の熱い思いで、実現しました。地域の味噌屋の協力・出前指導、保護者の援助の下、幼児が麹と塩と大豆を混ぜ合わせて「みそづくり」を体験。約二か月間、味噌屋で寝かせた後、各家庭に持ち帰り、親子で味噌汁の具材を考え合い、美味しい味噌汁を堪能することができました。

このように、本園の「三つの種」育てを支える「早寝早起き朝ごはん」の取組が、令和六年度文部科学大臣表彰をいただき、幼児や保護者、そして支えていただいた方々と喜びをともにしました。今後も、幼児の健やかな成長をめざして取り組んでまいります。



すくすく子育てサロン



ちやれんじ食材の日



みそづくり



特集 学校の自慢の給食

スープカレー



北海道札幌市
北海道教育大学附属札幌小学校

北海道・札幌市発祥のご当地料理「スープカレー」を給食で提供しています。鶏がらスープをベースに、様々な調味料やスパイスを加えて丁寧にスープを仕上げています。具材はかぼちゃ・じゃがいも・にんじん・玉ねぎ・ぶなしめじ・れんこんをたっぷり使用。かぼちゃとじゃがいもは煮崩れしないよう素揚げし、れんこんはカリッとしたチップスにしてトッピングします。このれんこんチップスが子どもたちに好評です。今後は大根やごぼうを加えた根菜パーションへの展開や、具材を選ぶ「総選挙」の開催も目指しています。

あなごちらしずし



広島大学附属東雲小学校
広島県広島市南区東雲三丁目1番33号

広島の名産であるあなごを使用した「あなごちらしずし」は創立記念日(10月30日)をお祝いして、毎年提供している本校伝統のメニューです。給食室では回転釜を使用し、ごはん・すし酢・具材を混ぜて合わせ、全校分のあなごちらしずしを作っています。 “ちらしずし”を食べたことがない児童も少なくありませんが、実際に味わうことで地域の食文化にふれる貴重な機会となっています。これからも受け継いでいきたい本校自慢の一品です。

金時草のそぼろ寿司



石川県金沢市東兼六町2番10号
金沢大学人間社会学域学校教育学類附属特別支援学校

金時草は金沢市が認定した15品目の伝統野菜である「加賀野菜」のひとつで、葉の表側が緑色、裏側が紫色をした野菜です。茹でた後に酢と合わせることで、金時草のアントシアニン色素が赤紫色に変化します。給食では金時草を寿司酢と合わせご飯と混ぜることできれいな紫色のご飯が出来上がります。そこに、子どもたちの大好きなそぼろや炒り卵がのって登場します。紫色のご飯に初めはびっくりする子どもたちも、食べた笑顔になります。

8月30日の献立 特に「すじえびのかき揚げ」
9月4日の献立 特に「小鮎のから揚げ・磯香あえ」



滋賀大学教育学部附属小学校
滋賀県大津市昭和町10番地3号

私たちの自慢の給食は、2年前の4年は組が考えた「沖島の魅力」を伝えよう！メニュー！です。沖島とは、滋賀県の琵琶湖に浮かぶ有人島で、世界でも珍しい島として知られています。私たちは実際に船に乗り沖島へ行って、島の魅力や特色のある産業について学習しました。島で捕れるおいしい子鮎やスジエビを使い、1年生でもおいしく食べられるようにかき揚げや唐揚げにするなど調理方法を工夫しました。みんなから「おいしい」と言ってもらって、とてもうれしかったんです。沖島の魅力をみんなに知ってもらえる思い、出に残る給食メニューです！

①トリニータ丼(人気メニュー)
②柑橘シャワーの幸せ大分とり天
(5年生オリジナル給食メニュー)



大分大学教育学部附属小学校
大分県大分市王子新町1番1号

①トリニータ丼 大分の子どものなら誰もが知る人気メニューです。大分市の特産でもあるニラの普及と地元チームの応援を願い、誕生しました。甘辛ダレで和える調理の工夫により、苦手な児童がニラを克服する貴重な契機となっています。

②柑橘シャワーの幸せ大分とり天 大学の卒論に協力し、5年生が家庭科の学びを生かして考案しました。かぼすソースをかけて食べる附属小学校オリジナルのとり天です。

①まぐろのこはくあげ
②サンマーマン
③はなこんにやくのいたためも



横浜国立大学附属横浜小学校
神奈川県横浜市中区立野64

①「まぐろのこはくあげ」は、本校の給食の人気メニューです。味増をまぐろの下味に隠し味として入れています。みそを使うことで、味にコクが出て、琥珀色の「まぐろのこはくあげ」が出来上がります。魚が苦手な児童からも「お肉のようおいしい」と好評です。

②「サンマーマン」は、横浜市発祥のメニューです。鶏と豚のガラで丁寧にだしをとった優しい味付けの人気メニューです。しょうがにんにく、ねぎなど、もやし、たまねぎ、はくさい、ねぎなど、たくさんの野菜が摂取できる栄養満点のメニューです。

③はなこんにやくは、横浜市発祥のこんにやくです。緑がギザギザしているのが特徴で、いちよう切りにして炒めると、花びらのようにかわいらしい見た目になります。昔から食べられている食材ですが、現在では製造しているお店も少なくなっています。地域の食材への興味・関心や、感謝の気持ちをもらいたいという思いから、給食に取り入れています。

①ソースかつ丼
②打ち豆入り混ぜご飯



福井大学教育学部附属特別支援学校
福井県福井市ハツ島町1-3

ソースかつ丼は、ご当地B級グルメとして福井県民に広く親しまれています。薄く平たくしたかつを甘めのタレにくぐらせてご飯の上にのせます。児童生徒にも人気があり、卒業する生徒を対象に実施するリクエスト給食のアンケートでは毎年必ず名前が挙がるほどです。昨年度実施した給食総選挙でも1位となり、実際に給食に登場しました。

打ち豆入り混ぜご飯は、福井県で有名な打ち豆を使った混ぜご飯です。福井県産の大豆を使用した打ち豆を取り入れることで、福井の大豆を食べる機会にもなっています。一度戻した打ち豆と他の具材を調味料で煮て、炊き上がった白ご飯に混ぜて提供しました。児童生徒はおいしそうに混ぜご飯を食べていました。

白ごはん、ほうれん草のみそ汁、
松風焼き、キャベツのおかか和え



鹿児島大学教育学部附属特別支援学校
鹿児島県鹿児島市下伊敷1丁目10-1

この献立は、鹿児島の食材を活かしたメニューです。松風焼きには、鹿児島県産の豚・鶏ひき肉を使用し、ごまを加えることで不足しがちな亜鉛も補っています。キャベツのおかか和えには指宿産キャベツと枕崎産の鰯節を使用し、旨味を活かして醤油のみで減塩に仕上げました。みそ汁には、ほうれん草、大根、ごぼうなど様々な野菜を使用しています。

①農園芸班産ねぎ・大根入り豚汁
②さつま汁
③ガバオライス



宇都宮大学共同教育学部附属特別支援学校
宇都宮市玉木町1丁目2550番地

①本校は、年間を通じて子どもたちが育てた野菜を給食に取り入れています。この豚汁には高等部農園芸班が育てた大根とねぎを使用しました。最初ねぎのみ使用する予定でしたが、収穫の際、大根の収穫もつたため、急ぎ大根も使用しました。採りたてのねぎと大根はみずみずしくやわらかで、農園芸班の生徒たちに感謝しつつ、全校でおいしくいただきました。

②小学部が毎年校内の畑にさつま芋の苗を植える。その後の管理を高等部農園芸班が行い、さつま芋も育てています。11月、小学部が収穫した芋も、給食のさつま汁にまいもたっぷりの汁で温まりました。

③高等部農園芸班が栽培したバジルたっぷりのガバオライスです。毎年夏の給食に登場する恒例のメニューで、それに合わせて毎年バジルを栽培してもらっています。子どもたちの味覚に合わせて辛味はマイルドにしています。人気のメニューで、子どもたちからリクエストが来ることもあります。

①めはりずし
②亀山みそ焼うどん
③伊勢茶かきあげ



三重大大学教育学部附属特別支援学校
三重県津市観音寺町484

①めはりずしは三重県熊野地方に伝わる郷土料理です。名前の由来は「目を見張るほどおいしい」「目を見張るほど大きな口を開ける」という説があり、山仕事、海仕事といった力仕事の合間に簡単に食べられるように大きくしたそうです。握り飯を高菜漬で包んだシンプルな料理ですが、めずらしい料理に子ども達も目を丸くしながら喜んで食べています。

②三重県の中部に位置する亀山市のソウルフード。赤みそベースの甘辛ダレと香ばしい風味が特徴で、野菜が苦手な子どもやお肉・うどんと一緒に食べられる料理です。少し焦がすくらいに炒めるのがおいしさの秘訣です。

③お茶の生産量が鹿児島県、静岡県に次ぐ第三位が三重県です。5月の新茶の季節、伊勢茶の葉を荒く粉末にして生地に混ぜ込み、かき揚げにしています。ほんのり緑色に染まったかき揚げは新緑の季節にぴったりなうえ、お茶の栄養を丸ごと摂取できます。

①松阪牛肉とごぼうのうま煮
②津ぎょうざ
③僧兵汁(そうへいじる)



三重大大学教育学部附属中学校
三重県津市観音寺町471

①三重県を代表するブランド牛を賢沢に使ったご当地メニューです。牛肉のうま味とごぼうの香りの相性がよく、すき焼き風味の味付けで白いご飯が進みます。また、刻み昆布や糸こんにゃくも入っているため、不足しがちな食物繊維もしっかり摂取できます。

②直径15センチの大きな餃子の皮で具を包み、油で揚げた手作り餃子です。三重県津市教育委員会の栄養士が「子どもたちにお腹いっぱい食べてほしい」という温かい思いからレシピを考案し、1985年頃から現在にいたるまで不動の人気メニューです。

具におからを混ぜることで栄養価も高まり、ジュースかつ節約にもなります。

③戦国時代、三重県北西部に位置する菰野町にある三岳寺の僧兵たちが、織田信長の攻撃に対抗するため、栄養補給のために食べていたとされる「僧兵鍋」が起源です。具沢山の野菜、豚肉、昔は猪や鹿、にんにくをみそ仕立てに仕上げます。

①バリバリサラダ
②サーターアングギー



お茶の水女子大学附属小学校
東京都文京区大塚2丁目1番1号

●バリバリサラダ
ボイルした野菜の上に、パリパリに揚げたワントンの皮がのっているサラダです。クラスでドレッシングを和えていただきます。パリパリとした食感が人気のサラダです。

●サーターアングギー
生地から手作りをしています。プレーン味、黒糖味、かぼちゃ味などの種類があり、お腹も満足な人気のデザートです。

特集 学校の自慢の給食

- ①ミートグラタン
- ②豚肉の生姜焼き
- ③お麩ラスク



昭和23年から続く伝統ある自園給食は保護者の方々が当番で手作りし大切に受け継がれてきました。“いいにおい”につられて「きょうはなにかな？」と給食室の窓をのぞく可愛い姿が見られるのは、給食当番に入る保護者の特権です。

温かくて家庭的な味の美味しい給食は、子どもたちの楽しみの一つです。好き嫌いがあっても子どもたちも「おいしい！」と言いながら、家では苦手な野菜もおいしそうに食べることができています。

大阪教育大学附属幼稚園

大阪市平野区流町2-1-79

豚肉のごまがらめ



本校の給食に初めて豚肉のごまがらめが出たのは約30年前。たくさんの子供たちや先生方に、長きにわたり愛されてきた歴史ある献立です。豚肉は希少部位と言われている豚ヒレ肉を使用しています。自校で献立を立てているから、給食で提供することができた献立と言えます。甘辛いたれが絡んだ豚肉のごまがらめは、ゆでキャベツとの相性が抜群です。

- ①かんぴょうローネ
- ②かんぴょうのごま和え
- ③かんぴょうの卵とじ汁



栃木県の特産品である「かんぴょう」を使ったメニューです。普段からかんぴょうの卵とじ汁やごまあえ、五目ご飯など、郷土料理を中心にかんぴょうを使ったメニューを多く取り入れています。昨年の県民の日には、「洋食でもかんぴょうをおいしく食べてもらいたい」という思いから、ミネストローネスープにかんぴょうを入れました。地域の食文化を大切にしながら、子どもたちが楽しく地元の味に触れられる給食づくりを心がけています。

宇都宮大学共同教育学部附属小学校

宇都宮市松原1丁目7番38号

- ①ミートグラタン
- ②パンプキングラタン



本校の自慢は、行事に合わせて仕上げるグラタンです。ハロウィンにはかぼちゃ、クリスマスにはツリーの模様をパセリで描き、見た目も楽しい一品にしています。かぼちゃやじゃがいもを蒸して土台にし、一から手作りしたホワイトソースやミートソースを重ね、チーズをのせてこんがり焼き上げます。子どもたちからも「かわいい」「食べるのがもったいない」と好評で、給食の時間が楽しみになる人気メニューです。

大阪教育大学附属池田小学校

大阪府池田市緑丘1-5-1

- ①鯛めし
- ②ハモハモごぼう



山口県光市では、夏に「鯛」、春と冬には「鯛」が獲れます。鯛めしには、地引網漁体験で獲れた真鯛や、縁起物の桜鯛を使用しています。皮までパリッと焼き上げた鯛のうまみが口いつばいに広がります。

ハモハモごぼうは、本校の児童が考えました。山口県で人気のメニュー「チキンチキンごぼう」の鶏肉を鰹にアレンジしています。

どちらも地域の食材を活用した、児童生徒に大人気のメニューです。

山口大学教育学部附属光義務教育学校

山口県光市室積8丁目4-1

- ①ぶりコロッケ
- ②白かぶチャウダー
- ③給食グランプリ



地域の食材や旬の食材を生かした給食づくりを大切にしています。函館近海産のぶりを使つた「ぶりコロッケ」や、七飯町の白かぶと函館産野菜の「白かぶチャウダー」など、地元の味を楽しめる献立が人気です。また、6年生が栄養バランスや旬、地域食材を考えて献立を作る「給食グランプリ」を実施。全校児童の投票で選ばれた献立を実際の給食として提供し、食への関心やふるさとへの愛着を育んでいます。

北海道教育大学附属函館小学校

北海道函館市美原3丁目48番6号

- ①ピースそばごはん
- ②玉名らーめん
- ③高菜めし×だご汁×菜焼



①5月の旬の食材であるグリーンピースを使つて子どもたちとさやむき体験を行いました。実際に触れて、香りや豆の数を確認しながら取り組むことで、興味関心が高まりました。さやむきしたグリーンピースが「ピースそばごはん」として学校給食に登場し、さやむきをしたクラスの子供たちはとても誇らしげで、完食する姿がみられました。また、さやむきをしていないクラスについても「おいしかったと伝えてこよう」という感謝の心が芽生えていました。

②全国学校給食週間中に毎年リクエスト給食を実施していますが、その時に必ずと言っていい程、子どもたちからリクエストされるメニューが「玉名らーめん」です。熊本県玉名地方発祥のらーめん「玉名らーめん」は、白濁スープ、ポークフィッシュを使つて塩分を抑えながらも本場に近い味付けで提供しています。保護者からも「今日は我が子がこんなに臭くなくて帰ってきまして」と笑いながらコメントを頂戴したこともあります。

③熊本県阿蘇地方の郷土料理である「高菜めし」と「だご汁」、「菜焼き」です。親子給食（保護者試食会）の時に提供したことのあるメニューで、保護者からも「阿蘇へ旅行に行った時に定食屋さんで食べたようなメニューを学校給食で味わうことができた」ととても好評でした。「だご汁」は、「だご（だんごの熊本弁）」をひとつひとつ千切つて作るため作業工程は大変ですが、小麦粉を練つて作っているの子どもたちにも食べやすい汁物です。

熊本大学教育学部附属特別支援学校

熊本市中央区黒髪5丁目1-1

- ①ラザニア
- ②丸ごとみかんケーキ



浜松小中学校の大人気メニューは、昭和時代から提供されているラザニアです。浜松餃子用の餃子の皮を手作りのミートソースに混ぜ、たっぷりのモッツアレラチーズをかけて焼き上げます。チーズがとろけるラザニアは、子供たちからリクエストが止みません。

他にも浜松産のみかんを皮ごと使用したみかんケーキなど、地元の特産物を盛り込みながら、出来立ての手作りの給食を提供しています。

静岡大学教育学部附属浜松小中学校

静岡県浜松市中央区布橋3丁目2の1

お茶揚げパン



静岡県産の緑茶粉を練りこんだロールパンに緑茶抹茶・さとう・塩を混ぜ合わせ、揚げたパンにまぶします。子ども達にできるだけ揚げたてのパンを食べてもらいたいのので配膳作業ギリギリまでパンを揚げています。

お茶の苦みが苦手な低学年は緑茶抹茶の分量を少なくし、高学年になるほど緑茶抹茶の風味を濃くするようにしています。子どもたちが大人になった時、給食の思い出でこの「お茶揚げパン」が頭に浮かぶといいなと思います。

静岡大学教育学部附属静岡小学校

静岡県静岡市葵区駿府町1-94

ふしょうコロッケ（通称：ふしょコロ）



千葉大附属小自慢の給食「ふしょうコロッケ（通称…ふしょコロ）」。大人も食べ応え充分の大きさで、なるべく多くの児童が味わえるようアレレギー配慮の優しさも詰まった一品です。

一時は調理員不足のため姿を消す時期もありましたが、皆の願いで見事復活しました。今では食の枠を超え、マスコット「ふしょコロくん」として、相手の「ブラックふしょコロくん」とともに本校を見守り続けています。名実ともに、本校の食と文化を支えるアイドルです。

千葉大学教育学部附属小学校

千葉県千葉市稲毛区跡生町1-33

- ①仙台雪菜のナムル
- ②曲がりねぎを味わうチャーシューメン
- ③仙台白菜と雪菜のコールスローサラダ



本校の給食は、宮城県食文化や仙台伝統野菜を日常の献立に生かしています。「ずんだもち」や「仙台風雑煮」など、季節の行事食を通じて郷土の味に親しめることも魅力です。こうした給食を土台に、3年生が総合的な学習の時間で仙台伝統野菜を調べ、「仙台白菜と雪菜のコールスロー」「仙台雪菜のナムル」「曲がりねぎを味わうチャーシューメン」を考案。野菜が苦手な子も食べやすい工夫された一品が給食に採用され、伝統野菜の味を楽しみました。

宮城教育大学附属小学校

宮城県仙台市青葉区上杉6-1-4-1



第8回 全附P連 作文・絵作文コンクール

今回のテーマ 「せんせい、ありがとう！」

この「作文・絵作文コンクール」のテーマは、「先生へのメッセージ」や「先生との思い出」です。第8回目となる今年度も「作文・絵作文コンクール」には、全国の国立大学の各附属学校から素晴らしい作品の応募がありました。

近年、教育現場をめぐる様々な問題や事件がニュースで取り上げられています。また、先生方の働き方についても改善が求められて久しいです。

こうした教育現場を取り巻く現状、いわば逆風の中

審査委員長



審査委員長

くすのき しげのり氏

審査委員長講評

で、それでも子どもたちが育つ場としての学校で、学習の場面や学校生活の場面、日々過ごす教室の中で、子どもたちの信頼に応え、子どもたちの未来を見据えて、今たいせつなことは何かを考えながら日々の教育活動にあたっておられるたくさんの方の先生方の姿。そうした希望の光のような先生方の姿を今回も応募作品の中にたくさん見ることができました。

先生方を支えているものの中で、とりわけ大きなものは、日々の教育活動の中で感じられる、子どもたち一人ひとりの確かな成長の様子でしょう。

今この時も全国の多くの先生方は、子どもたちとしっかりと向き合っています。そうした先生とともに、今日も子どもたちは学び、確実に成長しています。



略歴

1961年生まれ、徳島県鳴門市在住。鳴門教育大学大学院修了。小学校教諭、鳴門市立図書館副館長を経てオフィスKUSUNOKIを設立。現在は作家として児童文学を中心とする創作活動と講演活動が続けている。絵本『おこだでませんように』(小学館)が2009年度青少年読書感想文全国コンクール課題図書に、2011年には、IBBY (国際児童図書評議会)障害児図書資料センターが発行する推薦本リスト「世界のバリアフリー絵本」に選出される。同作品で第2回JBBY賞バリアフリー部門受賞。2013年には『メガネをかけたら』(小学館)が青少年読書感想文全国コンクール課題図書に選定される。『メロディ』(ヤマハミュージックエンタテインメントホールディングス)『ええところ』(Gakken)、『ふくびき』(小学館)『ともだちやもんな、ぼくら』『ええことするのは、ええもんや』(共にえほんの杜)『ダメ!』(佼成出版)『しょうじき50円ぶん』(あかつき教育図書)等、小学校(2024年度改訂)・中学校(2025年度改訂)の教科書において、小学校1年生～中学校3年生の全学年の教科書に作品が採用・掲載される。『あなたの一日が世界を変える』(PHP研究所)『Life』(瑞雲舎)『わたしがはやくねるわけはね……』(小学館)等200作品を超える著作は海外でも広く読まれている。・日本児童文芸家協会評議員・徳島児童文学会会長・絵本応援プロジェクト代表 くすのき しげのり オフィシャルホームページ <http://www.kusunokishigenori.com/>

受賞者一覧

【会長賞】

作文

福岡教育大学附属小倉小学校 3年

佐藤 穂佳

【優秀賞】

絵作文部門

三重大学教育学部附属幼稚園 年少

紀平 千奈

茨城大学教育学部附属幼稚園 年中

梅原 かおり子

茨城大学教育学部附属幼稚園 年長

鈴木 陽葵

三重大学教育学部附属小学校 1年

もはめど あさと あいな

鳴門教育大学附属小学校 2年

松本 瑛多

静岡大学教育学部附属浜松小学校 3年

日比 野地恵

愛知教育大学附属名古屋小学校 5年

今面 咲乃

山梨大学教育学部附属中学校 1年

小林 愛美華

作文部門

福岡教育大学附属幼稚園 年中

川村 萌愛沙

愛媛大学教育学部附属小学校 2年

若狭 早

神戸大学附属小学校 4年

高部 英

秋田大学教育文化学部附属小学校 5年

津司 昌宗

群馬大学共同教育学部附属中学校 2年

小林 衣智花

静岡大学教育学部附属特別支援学校小学部 6年

佐藤 優太

【特別賞】

最優秀学校賞

三重大学教育学部附属幼稚園

優秀学校賞

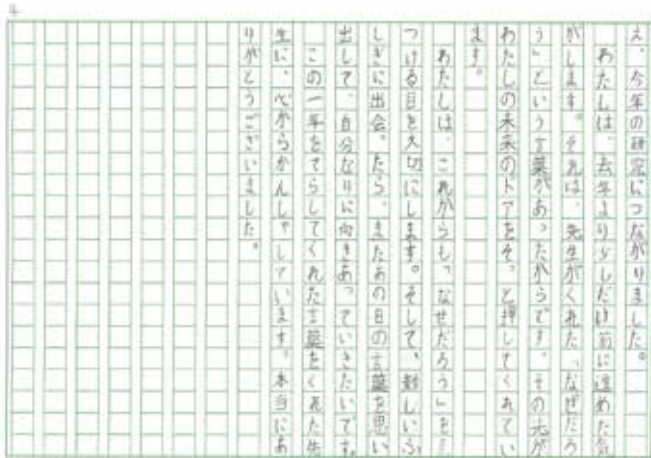
鳴門教育大学附属小学校

会長賞

福岡教育大学附属小倉小学校 3年

佐藤 穂佳さん

(表示している学年は応募当時のものです)



～くすのき先生からのひと言～

「『なぜだろう』は、たいせつだよ」自由研究の表彰式で審査員の先生が言ってくれたひとこと。心にしまっておいたこの言葉は、生活の中で光を放ちます。そして、科学の自由研究としての新たな課題を見出すことへとつながっていききましたね。「なぜだろう」と考えながら、磁石やシャボン玉を使って実験を続ける中でいろいろなことを学び成長したことがよくわかります。人類は、「なぜだろう」と考えながら発展してきました。それは科学技術だけではなく、様々な文化や社会の仕組みといったものまで。佐藤さんの「なぜだろう」も、これからさらに多くの場面でたいせつな光を放つに違いありません。

作文絵作文コンクール
受賞作品について
詳しくはこちら！



(表示している学年は応募当時のものです)

全附P連 令和7年度団体表彰

全附P連では、全国の附属学校PTA活動において、特に独創的かつ模範的な活動に対し、団体表彰を行なっています。令和7年度会長賞を掲載します。

【会長賞】熊本大学教育学部附属中学校PTA 竹灯籠と生徒の思いが響きあう、熊大附中の「みずあかり」



秋の夜、熊本城の周辺を5万4千個もの優しい光が包み込みます。「熊本暮らし人まつり・みずあかり」は、6千人ものボランティアが竹灯籠を手作りしてつくり上げる、「第16回ふるさとイベント大賞」や「第12回日本夜景遺産」にも認定された熊本の秋を象徴する風物詩です。（関連HPリンク先 <http://mizuakari.net/about>）

今回私たち熊大附中PTAがこの活動に参加したきっかけは、生徒たちの「地域を盛り上げるために、自分たちにできることは何か？」という総合的な学習の時間で立てた一つの「問い」からでした。生徒たちは、ボランティアの力だけで運営される「みずあかり」に自分たちの「問い」に対する答えが見つかるのではないかと、代表であり本校の卒業生でもある石原さんを訪ねました（6月）。先輩が街のために活躍する姿は、生徒たちにとって今後の生き方を考える大きな刺激となりました。石原さんも「附中のみんなで熊本の夜を照らそう」「ボランティアをやる中できっと答えも見つかるはずだ」と、竹灯籠を飾る場所を快く提供してくださいました。

しかし、一本の竹に電動ドリルで無数の穴を開ける竹灯籠づくりは、生徒の力だけでは時間も人手も足りません。200個近い竹灯籠の運搬や設置など、大人の助けが必要です。そこで生徒は本校のPTAへ協力を要請することになりました（7月）。

要請を受けたPTA執行部は「附中みずあかり」チームを臨時的に編成し、保護者参加型の製作会を開催しました（9月）。代表の石原さんを講師に迎えて、親子で協力して竹に穴を開けていきました。写真からも伝わるように、真剣な

表情でドリルを握る生徒たちと、それを優しく見守り支える保護者の様子を見ることができました。2時間の製作会を2日間実施し、延べ80名を超える保護者の参加で150個以上の竹灯籠を製作することができました。参加した保護者からは「息子と一緒に作れてよかった」「熊本のために活動できる誇りを感じた」「みずあかりがこんな思いで開かれているとは知らなかった」との声が上がり、94%の方が肯定的な回答でした。最終的には、運搬や設置、巡回を含め、100名を超えるPTAが協力する一大イベントになりました。

10月11日・12日の「みずあかり」当日、商業施設の一番目立つ場所に、校長先生と教頭先生が4時間以上かけて彫り上げた「響き合い 熊大附中」の特製灯籠が据えられました。復興へ進む熊本城を背に、暗闇の中に浮かび上がる繊細な模様と、親子で作った200個以上の灯籠が織りなす幻想的な光景でした。熊大附中の竹灯籠の前で立ち止まり写真を撮る人々の姿を見て、私たちの胸はジーンと熱くなりました。

私たちの学校は様々な市町村から生徒が通っているため、地域とつながるPTA活動が少ないことが悩みでした。しかし、街のために動く先輩がいて、何かしたいと願う生徒がいて、それを全力で支える保護者がいます。この取り組みは、学校が地域と手をつなぎ、街の一員として歩み出す新しい一歩になりました。来年度は、生徒や学校からの要請を待つだけでなく、自分たちで創意工夫して新たな活動を生み出していくような、より主体的なPTA活動になればと思っています。竹灯籠の小さな穴から溢れる光が、私たちPTA活動の今後の方向性も明るく照らしてくれました。



一般社団法人全国国立大学附属学校PTA連合会表彰 被表彰者

◆表彰 団体

表彰規程 第3条（1）、（2）に該当（組織運営が他の模範、PTA実践活動が顕著）

【会長賞】

校 園 名	PTA名称	会長名	事例名称
熊本大学教育学部附属中学校	熊本大学教育学部附属中学校PTA	岡 秀太郎	竹灯籠と生徒の思いが響きあう、熊大附中の「みずあかり」

【優秀賞】

校 園 名	PTA名称	会長名	事例名称
横浜国立大学教育学部附属鎌倉小学校	有志の会・ユネスコ推進チーム	後藤 健人	学校全体で一緒に取り組むユネスコ活動
福岡教育大学附属幼稚園	福岡教育大学附属幼稚園PTA	松本 徹	・城山キッズ「絵本の世界に飛び込もう！」 ・「子どもたちと一緒に楽しみ隊」～ザ・チャレンジ！幼児期のキャリア教育～
北海道教育大学附属旭川小学校	北海道教育大学附属旭川小学校PTA	梶山 朋宏	附小っ子ワイワイキャリアフェスーPTA がつなぐ地域と子どもの未来ー
宮崎大学教育学部附属中学校	宮崎大学教育学部附属中学校PTA	兒玉 剛	大学で学ぼう
岡山大学附属特別支援学校	岡山大学附属特別支援学校PTA	赤井 佳澄	学校・大学と連携した防災・安全研修の実施
三重大学教育学部附属小学校	育友会	高桑 靖	みんなの力で設備改修を
岡山大学附属中学校	岡山大学附属中学校PTA	岡 孝郎	なぜこの時代に新聞を発行するのか？心の温度が重なりあう記事を目指して
静岡大学教育学部附属浜松小学校・中学校	静大附属浜松小学校PTA	村上 哲平	制服リサイクル事業
三重大学教育学部附属幼稚園	育友会	坂 絵里菜	教師の日「色とりどり・思い思いのかすみ草でありがとう」 ～感謝の気持ちが咲く日～

幼稚園特別支援特集

全附P連幼稚園特別支援委員会

令和7年度 全附P連PTA活動助成事業報告

令和8年度 全附P連PTA活動助成のご案内はこちら→

全附P連PTA活動助成は、附属幼稚園・特別支援学校のPTA活動や、附属学校における障がい理解を促進する取組を支援するために実施された制度です。助成を通じて、保護者同士の繋がり強化や専門的な学びの機会の提供、子どもたちの多様な体験の充実を図ることを目的としています。



全国の保護者の皆様の活動が、附属学校園と附属の子どもたちを支えています

学校名	活動名	活動概要
福岡教育大学附属幼稚園	PTA主催餅つき大会	PTA主催のもちつき大会を実施。園児はもち米から餅になる過程を体験し、つきたての温かさや柔らかさを楽しんだ。保護者の協力でスムーズに運営され、伝統文化に触れる貴重な機会となった。
神戸大学附属幼稚園	幼少合同講演会	幼小合同講演会「子育てのノロイをほぐす」を開催。保護者が“ちゃんと”“できる”に縛られる意識に気づき、気持ちが楽になったとの声が多数寄せられた。子育ての視点が広がる機会となった。
静岡大学教育学部附属幼稚園	幼稚園の豊かな環境を守るため、PTA美化部定期清掃活動	美化部による園周辺の定期清掃を実施。プロワ―導入で作業効率が向上し、落ち葉の多い季節も短時間で清掃可能に。地域への配慮と環境整備に貢献した。
千葉大学教育学部附属幼稚園	PTA親子ふれあい遊び	外部講師による親子ふれあい遊びを実施。手遊び・歌・ダンスで親子が一体となって楽しみ、園全体のつながりが強化され、参加者の声をまとめたところ、満足度も非常に高かった。
三重大学附属幼稚園	親子で地域の伝統文化に触れる交流活動	伊勢木綿ワークショップと高虎太鼓体験を実施。地域文化に触れながら親子で制作・体験し、保護者同士の交流も促進。子どもたちは伝統文化への関心を深めた。
大阪教育大学附属幼稚園	焼き芋大会	園庭で焼き芋大会を開催。子どもたちが芋洗い・包み・焚火への投入を体験し、自然の恵みへの感謝を学んだ。助成により十分な量を準備でき、おかわりも可能だった。
福井大学教育学部附属幼稚園	お父さんのボランティア活動「藤棚剪定ボランティア」	お父さんボランティア6名が藤棚を電動バリカンで剪定。作業効率が上がり短時間で安全な遊び場を整備。保護者同士の親睦も深まり、園への関心向上にもつながった。
秋田大学教育文化学部附属幼稚園	こどもふれあいデー・お餅つき	学生主体で「こどもふれあいデー」と餅つきを開催。多様な遊びや餅つきを通して交流が広がり、留学生も参加。子どもたちは多様な味の餅や遊びを楽しんだ。
上越教育大学附属幼稚園	であいの森文庫	保護者向け貸出図書「であいの森文庫」を整備。玄関に新たな本棚を設置し利用が増加。子育てに役立つ本を毎年追加し、家庭教育の充実に寄与している。
宮城教育大学附属幼稚園	仙台89ERSと親子バスケット	仙台89ERSのコーチを招き、親子でバスケット体験。ボール操作やドリブルを楽しみ、運動への興味や地域とのつながりが深まった。多くの園児が「またやりたい」と前向きな感想を寄せた。
筑波大学附属久里浜特別支援学校	自閉症の子どもたちと筑波大学学生とのサマーキャンプ	自閉症児と大学生のサマーキャンプを実施。レクチャー、磯遊び、ヤギとのふれあい等を通じ、大学生は理解を深め、子どもたちは安心して交流を楽しんだ。
愛媛大学教育学部附属特別支援学校	美味しく備えるPTA防災食試食会	災害時に備え、防災食を実際に調理・試食し、味・食感・調理のしやすさを確認。評価結果を共有し、家庭の備蓄選びに役立てた。保護者間の交流も深まり、防災意識が向上した。
北海道教育大学附属札幌小・中学校ふじのめ学級	「チョコレートな人々」上映会	映画「チョコレートな人々」上映会を開催。特別支援・通常学級の保護者が参加し、就労や多様性への理解を深めた。後日、実店舗見学も行い学びを深めた。
岡山大学附属特別支援学校	PTAで取り組む防災活動	非常食給食と保護者向け試食会、非常用トイレ体験を実施。児童生徒・保護者・教職員が同じ非常食を食べ、防災への理解を深めた。長期保存食への不安も美食で解消された。
金沢大学附属特別支援学校	自分だけのキャンドルづくり～ワークショップを通して余暇の広がり～	講師を招いたキャンドルづくりワークショップを実施。生徒は色選びや制作を楽しみ、達成感を得た。保護者も集中して制作を楽しみ、交流の機会にもなった。
福井大学教育学部附属特別支援学校	親子お楽しみ会「福井ブローウィンズ試合観戦」	地元プロチーム「福井ブローウィンズ」の試合を親子で観戦。迫力ある試合や応援を楽しみ、学年を超えた交流も生まれた。地域スポーツへの関心が高まり、親子で特別な時間を共有できた。

あいサポーター研修 開催募集

あいサポート運動は、障がいのある方が日常生活で直面する困りごとや必要な配慮を理解し、「ちょっとした手助け」を実践することで、誰もが暮らしやすい地域共生社会をつくる取り組みです。鳥取県で創設され、全附P連が任意団体として初めて連携協定を結び、全国の附属学校での開催を推進しています。研修では、障がい特性の理解、社会的障壁、手話や車椅子体験などを通じて、心のバリアフリーを育みます。児童生徒・保護者・教職員が地域の「やさしさの中心」となることを目指します。

特別支援教育周知活動

全附P連は、特別支援学校・学級の生徒や卒業生が活躍する福祉事業所の製作品を購入し、全国大会等での贈呈・販売を通じて、附属特別支援学校・学級の教育活動を社会に向けて周知しています。



幼稚園特別支援委員会視察事業

令和8年1月14日、全附P連幼稚園特別支援委員会は、筑波大学附属視覚特別支援学校と桐が丘特別支援学校の視察を行いました。視覚障害や肢体不自由のある幼児児童生徒に対し、個々の特性に応じた教材・環境整備、自立活動の指導、社会参加を見据えた教育が実践され、点字・拡大教材、車椅子に配慮した校舍設計など、安心して学べる環境づくりが徹底されていました。視察を通じ、附属特別支援学校の先導的役割と、個別最適な学びを支える重要性を再認識いたしました。



幼稚園特別支援委員会の事業や活動のご案内は、全附P連のホームページをご覧ください。

国立大附属学校振興議連 新体制でスタート

―保護者・地域との連携強化を訴え―



森英介 前会長



塩谷立 氏



石橋林太郎 新事務局長



齋藤健 新会長

文部科学省からは幹部数名が出席。文部科学省高等教育局専門教育課教員養成企画室の若林徹室長からは附属学校の現状について説明があった。少子化の進行と国立大学改革の流れの中で、附属学校の規模見直しや統廃合の議論が続く一方、先導的な教育研究機関としての役割への期待も改めて示された。

今総会は議連にとって大きな節目となった。長年にわたり会長として附属学校の振興を牽引してこられた森英介先生がご退任され、新たに齋藤健先生が会長に就任。事務局長も大野敬太郎先生から石橋林太郎先生へとバトンが渡り、議連は新体制でのスタートを切った。森先生・大野先生のご尽力に深く感謝申し上げるとともに、新体制のご活躍を心より祈り申し上げます。また、国立大学附属学校全国同窓会会長の塩谷立先生もご参加くださり、附属学校を支える各界の連帯の厚さを改めて感じた。

新体制の議連と現場との連携がさらに深まることを期待しつつ、全附P連としても引き続き附属学校の振興と、子どもたちの豊かな学びの環境づくりに向けて積極的に関わってまいりたい。

全附P連からは、少子社会・国立大学改革・保護者の関わりという三つの視点から、地域と保護者が附属学校の公益性・公共性を支える重要性を訴えた。附属学校は単なる教育機関にとどまらず、地域づくりを推進するキーステーションとしての役割を担っている。学校・家庭・地域・行政が一体となって子どもたちの学びを支える環境を築くことが、今後の附属学校の存在意義をより広く社会へ示すことにつながる。

新会長に齋藤健 氏決定

令和8年5月25日、衆議院第一議員会館において「令和8年度国立大学附属学校振興議員連盟総会」が開催された。



全附後連は、教育後援会・附属学校・大学が三位一体となった改革を推進します

令和8年度も引き続き、全附後連の理事長を務めさせていただくこととなりました。昨年度は、全国の教育後援会の皆様とともに、コンプライアンスの整備と公共性の向上に向けた取組を進めてまいりました。改めて、関係者の皆様のご理解とご協力に心より感謝申し上げます。お陰様で、学長・学部長協議会や各地区総会などで説明の機会をいただき、多くの先生方にコンプライアンス整備の必要性をご理解いただくことができました。しかし、その取組はまだ十分とは言えず、コンプライアンスの整備のために設立されたはずの全附後連への加盟校も全校には至っておりません。私たちが向き合うべき課題は、教育後援会だけの問題ではありません。資金の集め方や使い方によっては、大学や附属学校の運営そのものが重大な法令違反に問われる可能性があります。すでに一部では看過できない課題も明らかになっており、教育後援会、附属学校、大学が、それぞれの立場と役割を理解しながら、三位一体となって改善と改革に取り組むことが不可欠です。

また、『教育後援会運営ガイドライン』は改革の方向性を示していますが、実際には各後援会が抱える課題を一つ一つ解決していく必要があります。そのためには、単位後援会だけでなく、文部科学省や日本教育大学協会をはじめとする関係機関とも連携し、調査・研究・開発を進める全附後連に加盟し、共に学び、共に歩んでいただきたいと願っております。全附後連は本年度も『コンプライアンスの整備のためのStep30』を推進し、子どもたちとこの国の未来のために、公教育を支える縁の下の力持ちとしての使命を果たしてまいります。引き続き、ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。



全国国立大学附属学校
教育後援会連絡協議会
理事長 竹川 裕之 氏

日本最大の
教育専門全国紙

教育界と共に歩んで
おかげさまで
80周年
昭和21年9月創刊

日本教育新聞

全附P連 連載記念！



○全国国立大学附属学校PTA連合会の連載を毎月1回掲載 (2026年4月20日付)



○国立大学附属学校応援キャンペーン

『日本教育新聞』の購読 (新規1年以上) で令和6年『日本教育新聞縮刷版』をプレゼント！

「子どもたちとこの国の未来のために」 一般社団法人 全国国立大学附属学校PTA連合会会長 荒 毅 啓

学校は、子どもだけでなく、教職員や保護者がともに学び育ち合う、地域社会の核となる場所です。少子化や共働き世帯の増加など、社会構造が大きく変化し複雑化する現代において、学校に期待される役割はますます重要になっています。とりわけ近年、国立大学附属学校は、大学改革に伴う機能強化や組織再編の議論の中で、統廃合や規模の見直しなどに直面する大きな転換期を迎えています。今、私たち一人ひとりに求められているのは、この国の教育の未来をどのように支え、次世代へとつないでいくのかを主体的に考え、行動することです。子どもたちとこの国の未来のために、学校現場、PTA 活動、教育行政など、教育全般に関する最新かつ幅広い情報を得ることができる日本教育新聞の購読をお勧めします。教育課題への理解をいっそう深め、教育活動や PTA 活動のさらなる充実を図る実践と研鑽への一助として、ぜひ日本教育新聞をご活用ください。



お申し込み ◆教育現場の必須アイテム！国立大学附属学校園で求める教育情報が毎週届きます。是非ともこの機会にご購読ください。

【必要事項】 学校名 (ご担当者)、ご連絡先 (郵便番号、住所、電話番号、FAX)、支払書類 (見積書、納品書、請求書)、日本教育新聞の開始月、ご購読期間をお知らせください。
☎0120-43-3746 / 受付後、折り返しご連絡をさせていただきます。弊社ホームページの「お問い合わせ」→「お問い合わせ内容」からもお申し込みができます (要必要事項)。
※新規でご購読の国立大学附属学校が対象になります。個人のお客様は24時間ホームページからお申し込みができます (国立大学附属学校のキャンペーンとは別になります)。

日本教育新聞社
JAPAN EDUCATIONAL PRESS

〒108-8638 東京都港区白金台3-2-10 ■発行: 毎週月曜日 (月4回、年45回、合併月有) ■ご購読料: 月額3,000円 (税込3,300円)、年額36,000円 (税込39,600円)



「全附P連PTA研修会 第17回全国大会」をパシフィコ横浜で開催します

◆開催概要◆

日 程 令和8年9月25日(金) 13:00～19:30/9月26日(土) 9:00～12:00
会 場 パシフィコ横浜 会議センターメインホール
(横浜市西区みなとみらい1-1-1)
対 象 全国国立大学附属学校PTA会員(保護者・教職員)ほか
申込期間 令和8年7月6日(月)～8月31日(月)
※詳細は2次案内にて
主 催 一般社団法人全国国立大学附属学校PTA連合会
後 援 文部科学省(予定)/日本教育大学協会(予定)
協 力 全国国立大学附属学校連盟/全国国立大学附属学校教育後援会連絡協議会



スタートアップファクトリー代表
鈴木 おさむ氏



日本・BM代表取締役社長
経済同友会代表幹事
山口 明夫氏

基調講演

このたび全附P連では、「全附P連PTA研修会 第17回全国大会」を、令和8年9月25日(金)・26日(土)の二日間、パシフィコ横浜 会議センターメインホールにて開催いたします。

今大会は、開催スローガンに「子どもたちとこの国の未来のために」つながる保護者×ひろがる学校。未来を動かす子どもたちを掲げ、これからの保護者と学校のあり方をともに学び、子どもたちの成長を支える学びの場となることを目指しています。地域や大学、校種を越えた学校との連携、公教育の根幹や公益性・公共性の向上、単位PTAの活動支援や家庭教育の充実など、附属学校PTAを取り巻くさまざまなテーマを取り上げ、我が国の教育の発展に寄与する大会としてまいります。

初日は、開会行事に続いて省庁による行政説明、基調講演、シンポジウムを実施し、その後、4つのテーマ別分科会に分かれて、ジャーナリストや研究者、アスリートなど多彩な登壇者とともに学びを深めます。夕刻には、全国の仲間との交流を深める情報交換会を予定しています。二日目は、PTA・学校の活動事例発表や全附P連の活動紹介を行う附属セミナーに続いて基調講演を実施し、大会宣言をもつて締めくくります。

本大会は、全国の国立大学附属学校PTA会員(保護者・教職員)のほか、国立大学附属学校に関心のある方だけでなく、6月中旬頃にお届け予定の2次案内にてご案内いたします。全国の附属学校関係者が一堂に会する貴重な機会です。皆様のご来場を、心よりお待ちしております。

【全国大会案内】



公式LINEで情報を

お届けします！

全附P連の公式LINEアカウントを開設しました。全国の附属学校園に関する情報やPTA活動のご案内などを随時配信いたします。

ぜひこの機会にご登録ください。LINEの「友だち追加」からID (@545axydl)を検索するか、下記のQRコードを読み取ってご登録いただけます。

皆さまのご登録をお待ちしております。



全附P連 絵画コンクール



「わたしの好きな場所」

広島県にある三原市は、海・山・空がそろう夢らしく街です。空港、新幹線の駅や港から出発して、瀬戸内海の穏やかな多島美の景色を楽しんだり、里山暮らしに出かけたりと、私たちにとって三原は、ホッとできる居心地のいい「好きな場所」です。全国の園児・児童・生徒の心の中にある、幸せな時間、ひみつの場所、居心地の良い環境、行きたい場所、ずっといたい場所。あなたの心を揺さぶる場所を、ぜひ教えてください。

応募期間は

2026年8月24日(月)～9月4日(金) 17時まで！

附属に通う子どもたちから多くのご応募をお待ちしています！

主管校：広島大学附属三原学校園



詳細はこちら⇒

発行所

全附連 | 全国国立大学附属学校連盟
(一社) 全国国立大学附属PTA連合会
〒113-0033
東京都文京区本郷4-16-6
文京区本郷四丁目ビル
天翔オフィス後楽園9階905号室
TEL 03-5990-9444 | FAX 03-5990-9445
E-mail jimukyoku@zenfuren.org
印刷 株式会社インテックス

編集後記

今回の「附属だより」も、皆様のお手元にお届けすることができました。今号は、文部科学省からのご寄稿に始まり、各附属学校が誇る「自慢の給食」特集、第8回作文絵画コンクールの入賞作品、そして片山さつき財務大臣への附属OB訪問など、盛りだくさんの内容となりました。早寝早起き朝ごはん運動の20周年の歩みや、令和7年度団体表彰、各地のPTA活動報告も併せてご紹介しております。全国の附属学校で日々重ねられる教育と、それを支えるPTA活動の息づかいを、紙面の隅々から感じていただければ幸いです。ご寄稿・ご協力を賜りました皆様に、心より御礼申し上げます。本紙が学校・家庭・地域をつなぐ一助となりますよう、今後も委員一同力を尽くしてまいります。次号もどうぞご期待ください。(村上哲平)

編集委員

令和8年度広報委員会委員長
下永田 修二(千葉大学附属小学校)

全附P連

令和8年度広報委員会
副委員長
村上 哲平(静岡浜松中)

副会長兼専務理事
間宮 達紀(千葉小)

委員長
勝村 善一郎(広島三原学校園)

副委員長
内田 麗奈(京都教育桃山小)

桃原 勇人(琉球中)



全国国立大学附属学校園の幼児・児童・生徒の保護者の皆様へ

全国国立大学附属学校PTA連合会がおすすめする保険です！

2026年度
中途加入受付中

カンガルー保険のご案内

ただ今
募集中!

詳細につきましては、パンフレットをご覧ください。

団体総合生活保険 任意加入制度 24時間補償	約40%割引 全国国立大学附属学校PTA連合会が窓口の団体契約であり、保険料が割安です。 団体割引：30%・標準率による割引：5%・大口団体契約割引：10%・適用	24時間補償 お子様を取り巻く様々なリスクに対応した安心のための24時間補償です。	簡単・便利 保険料のお支払は「口座振替方式」更新のお手続き不要の「自動更新」です。
保険期間 2026年4月1日午後4時から2027年4月1日午後4時まで1年間 ※1 随時ご加入いただけます。(お申込日にかかわらず、補償は2025年4月1日午後4時に終了します。) ※2 ご加入ご希望の方は取扱代理店までお問い合わせください。			
加入対象者 ①全国国立大学附属学校園に在籍の幼児・児童・生徒 ②本制度にご加入いただいた上記①の兄弟で、公・私立の幼稚園・小学校・中学校・義務教育学校・高等学校・中等教育学校・特別支援学校に通われている幼児・児童・生徒(ご加入時に満3歳以上から満18歳以下の方に限ります。)			
申込手続き パンフレット差込の「カンガルー保険 お申込み方法」チラシ記載のQRコードもしくはURLよりインターネットでお申し込みください。 ※パンフレットのご請求・ご加入のご相談につきましては、取扱代理店までお問い合わせください。			
【引受保険会社】 東京海上日動火災保険株式会社 (担当) 公務第二部文教公務室 〒102-8014 東京都千代田区三番町6-4 TEL:03-3515-4133 25TX-006438 2026年3月作成			

全員加入制度 ※個人での加入はできません。	1 園児・児童・生徒、教職員の皆さまのケガなどを補償する 園児・児童・生徒・教職員 総合補償制度 (学校契約団体傷害保険、賠償責任保険PTA特約)	2 園児・児童・生徒、教職員の皆さまを犯罪事故からお守りする 犯罪被害事故 見舞補償制度 (傷害総合保険)	3 PTA活動に参加中のご両親・教職員の皆さまのケガや賠償事故を補償する PTA活動総合補償制度 (普通傷害保険PTA団体傷害特約、賠償責任保険PTA管理者特約、生産物特約)
保険期間 2026年6月1日午後4時から2027年6月1日午後4時まで ※「カンガルー保険(全員加入制度)」は全国国立大学附属学校PTA連合会を保険契約者、損害保険ジャパン株式会社を引受保険会社とし、学校契約団体傷害保険、傷害総合保険、PTA団体傷害保険、賠償責任保険(PTA特約、PTA管理者特約、生産物特約)を組み合わせた補償制度のペットネームです。 ※この広告は概要を説明したものととなります。詳細はパンフレットをご覧ください。			
【引受保険会社】 損害保険ジャパン株式会社 公務文教営業部 教室 〒160-8338 東京都新宿区西新宿1-26-1 TEL:050-3808-5536 SJ26-02810 2026年6月9日			

カンガルー保険・取扱代理店の お問合せ先

※このチラシは、団体総合生活保険の概要について紹介したものです。ご加入(同じ内容で更新する場合を含みます。)にあたっては、必ず「重要事項説明書」をよくお読みください。【重要事項説明書】には、ご加入または更新される保険の保険内容を正確に理解いただくために特に重要な情報、および、お客様にとって不利となる事項等、特に注意いただきたい情報を記載しております。ご不明な点等がある場合には、代理店までお問い合わせください。団体総合生活保険の内容等については、お手続きサイト内にて参照できます。

《北海道・東北・関東・北信越・四国地区》

株式会社 第一成和事務所

東京都中央区日本橋馬喰町1-12-3 ☎ 0120-100-492
Daiwa日本橋馬喰町ビル3階

《東海・近畿・中国・九州地区》

海上商事 株式会社

東京都渋谷区代々木2-11-15 ☎ 0120-745-748
新宿東京海上日動ビルディング

第17回

OBOG訪問

プロフィール

片山さつき / KATAYAMA Satsuki

1959年、埼玉県浦和市（現さいたま市）生まれ。東京教育大学附属中学校・附属高等学校（現・筑波大学附属中学校・高等学校）を卒業後、東京大学法学部に進学。1982年に大蔵省（現・財務省）に入省し、女性初の主計局主計官を務めた。2005年の衆議院議員総選挙で初当選し政界へ。現在は自由民主党所属の参議院議員（3期）として活躍。2025年10月、第一次高市内閣において史上初の女性財務大臣に就任。



片山さつき 財務大臣 × 宮本昌尚

自分で考え、自分の言葉で語ることを大切に

宮本 本日はご多忙の中、貴重なお時間をいただき、誠にありがとうございます。全国国立大学附属学校PTA連合会を代表して、心より御礼申し上げます。まずは、財務大臣兼金融担当大臣としての現在のご活動について、お聞かせいただけますでしょうか。

片山 こちらこそ、このような機会をいただきありがとうございます。私が拝命した財務大臣兼金融担当大臣は、国の財政政策の司令塔で、税制や予算編成、国際的な経済協力や為替の安定化などを担っています。昨年10月の高市早苗内閣発足後も、物価高対策として、ガソリンの暫定税率の廃止、電気・ガス代の補助、児童手当の上乗せ給付などを迅速に実現して参りました。

宮本 子育て世代にとっても、物価高は切実な問題です。今後の経済運営について、どのような方針をお持ちでしょうか。

片山 高市内閣では、財政の持続可能性を確保しながら、大胆な投資によって力強い経済成長を実現する「責任ある積極財政」を掲げています。戦略的な財政出動で、経済成長率を高めることを通じて、所得が増える、消費マインドが上がる、事業収益が増える。そうした好循環を目指しており、私はその舵取りを担っています。

宮本 ありがとうございます。私も全附P連も、長年にわたり子どもたちへの財政教育に取り組んでまいりました。こうした活動について、大臣はどのように感じでしょうか。

片山 全附P連の皆さまが長年取り組まれてきた財政教育は、「自ら考える力」を育てる大変意義深い活動で、変化の早い現代社会において、欠かせない資質です。新型コロナウイルス禍を経て再開されるに当たり、より多くの方に参加いただけるよう、引き続き連携していきたいと思っています。

宮本 心強いお言葉、ありがとうございます。ところで、大臣ご自身も附属学校のご出身でいらっしゃるんですよね。子ども時代やご家庭の環境は、どのようなものだったのでしょうか。

片山 父が大学教授という家庭で育ち、幼い頃から「学ぶことは特別なことではなく、日常の一部」という環境にありました。とはいえ、決して机に向かって勉強ばかりしていたわけではなく、自然の中で遊び、さまざまな人と関わる中で、

好奇心や探究心を育ててもらったと思います。家族は、私に「自分の頭で考え、自分の言葉で語ることを大切に」する姿勢を伝えてくれました。これは、今の政治の仕事にも通じる原点です。

宮本 「自分の頭で考え、自分の言葉で語る」——本日の対談のテーマそのものです。では、附属学校での学びや思い出について、特に印象に残っていることをお聞かせください。

片山 中学校から高校まで、東京教育大学附属学校（現・筑波大学附属）に通いました。附属学校は、自由闊達な校風の中で、多様な価値観に触れながら学べる場でした。画一的ではなく、一人ひとりの個性を尊重する教育は、今振り返っても非常に先進的だったと感じます。公立小学校から進学した際には、学びに対する姿勢や議論の深さの違いに驚いた記憶があります。先生方や同級生、先輩・後輩との出会いは、私の視野を大きく広げてくれました。

宮本 個性を尊重する教育という点は、現在も附属学校が大切にしているところです。それでは、これからの附属学校教育に期待されること、そしてその魅力について、大臣のお考えをお聞かせいただけますか。

片山 近年、国際化や情報化社会の進展により、多様性やボーダーレスといった価値観が、社会全体のみならず教育現場においても一層、重要性を増しています。附属学校は、実験的・先導的な教育を通じて、これからの社会を生き抜く力を育む役割を担っていると考えています。知識の習得にとどまらず、「なぜそうなるのか」「自



分はどう考えるのか」を深く問い続ける姿勢こそが、附属学校の最大の魅力です。今後も、社会と積極的につながりながら、新しい時代の教育モデルを示していくことを期待しています。

宮本 温かいお言葉、ありがとうございます。先導的な役割という期待に、私たちもしっかり応えていきたいと思っています。最後に、全国の附属学校に通う子どもたち、そして支える保護者や先生方へ、メッセージをお願いいたします。

片山 附属学校での学びは、決して「正解を覚えること」ではありません。失敗を恐れず挑戦し、仲間と議論し、自分なりの答えを見つけていく過程こそが、将来の大きな財産になります。保護者の皆さま、そして日々子どもたちに向き合っておられる先生方のご尽力に、心から敬意を表します。子どもたちが自分の可能性を信じ、社会に羽ばたいていけるよう、私自身も一人の附属学校の先輩として、そして政治の立場から、応援を続けてまいります。

宮本 本日は、ご自身の歩みから未来への期待まで、大変示唆に富んだお話をいただきました。子どもたち、そして私たち保護者にとっても、大きな励みとなるお言葉でした。誠にありがとうございます。

社会と積極的につながりながら、
新しい教育モデルを示していくことを期待しています。